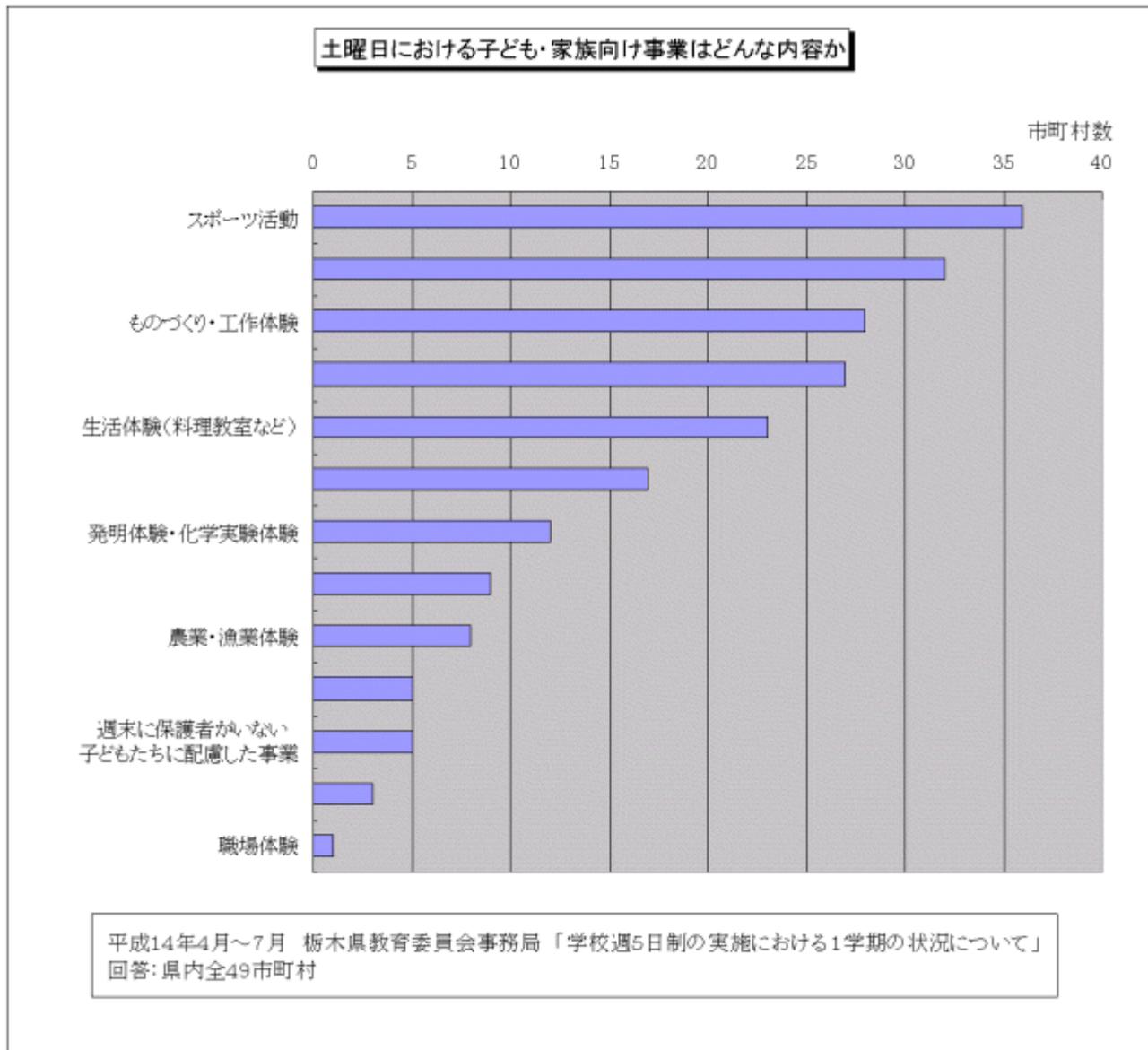


Ⅱ 完全学校週5日制に関する各種アンケート調査結果の分析と課題の整理

1. 完全学校週5日制に関する意識・実態調査の概要

(3) プログラムの実施について

《 図6 》 土曜日における子ども・家族向け事業の実施状況



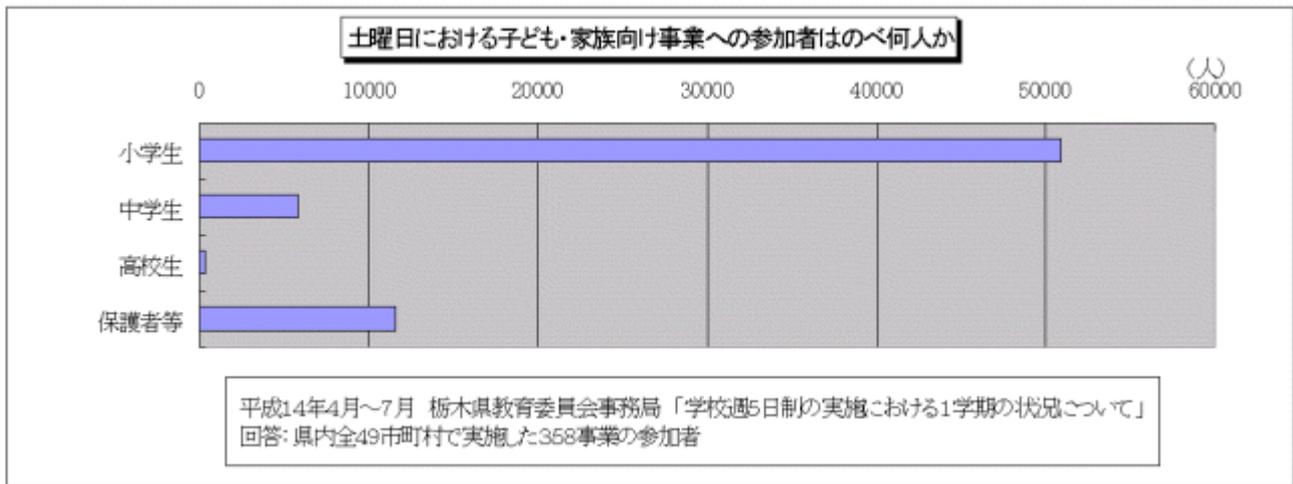
実施事業の多数は、「スポーツ・文化活動」

「ものづくり」「自然・生活体験活動」

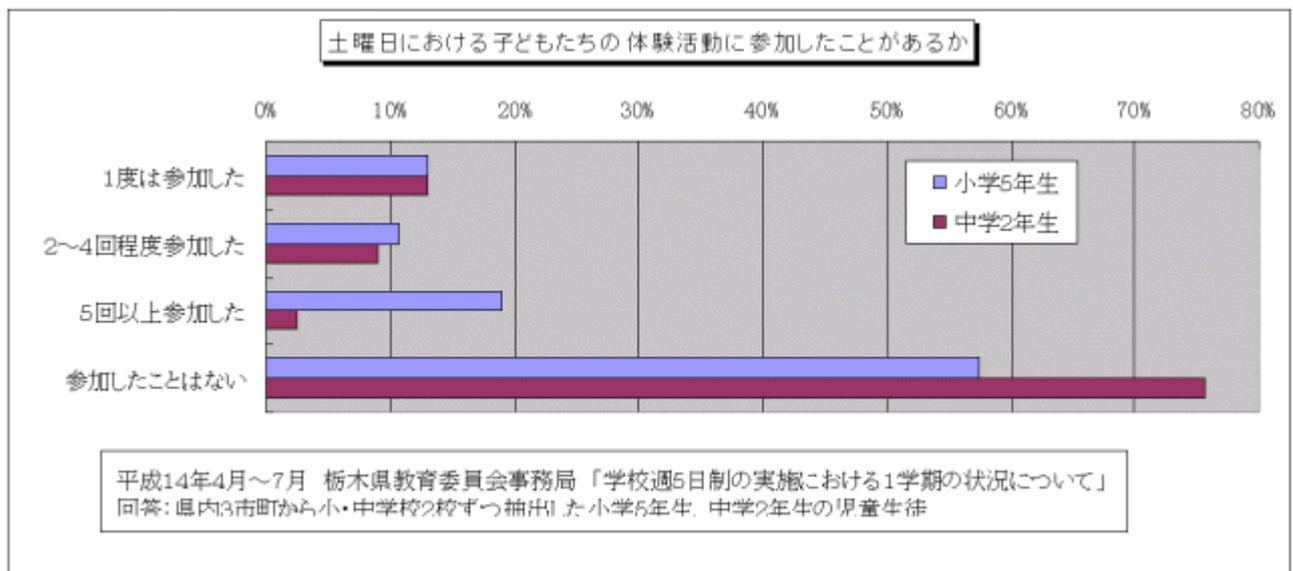
県内市町村で平成14年4月から7月にかけて実施した5日制に伴う事業では、「スポーツ活動（36市町村）」「文化活動（32市町村）」「ものづくり・工作体験（28市町村）」「自然体験活動（27市町村）」「生活体験（23市町村）」と続いている。

一方「週末に保護者がいない子どもたちに配慮した事業」は、5市町村と少ない。

《 図7 》 土曜日における子ども・家族向け事業への参加者数



《 図8 》 土曜日における子どもたちの体験活動への参加状況

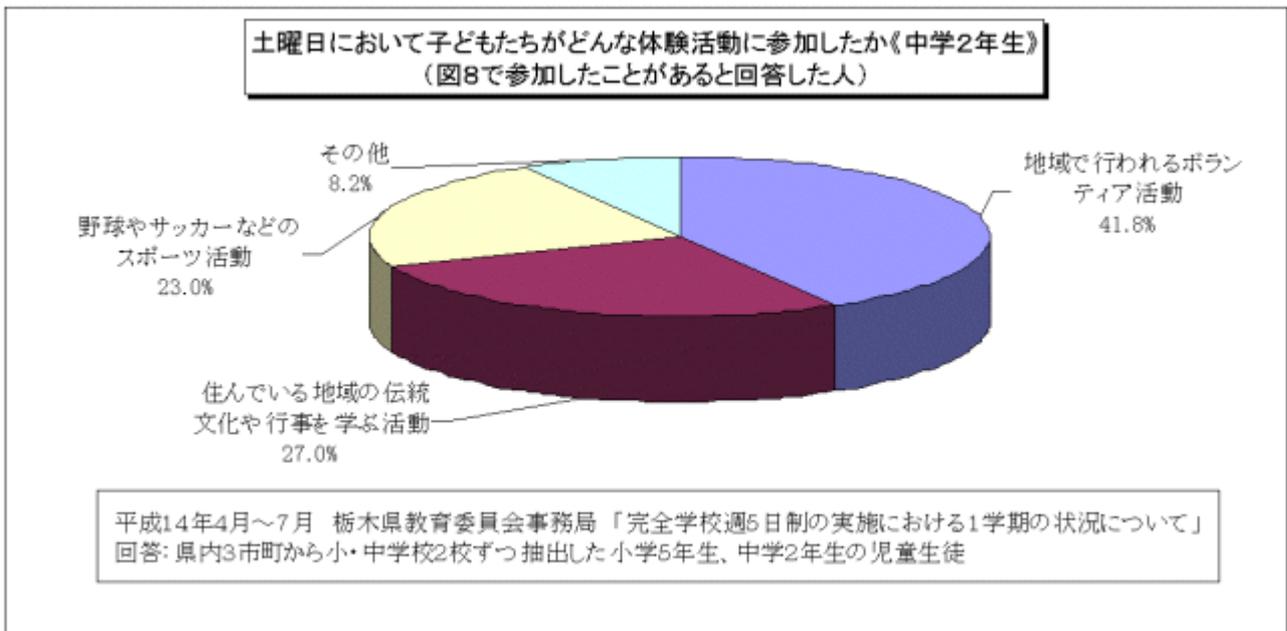
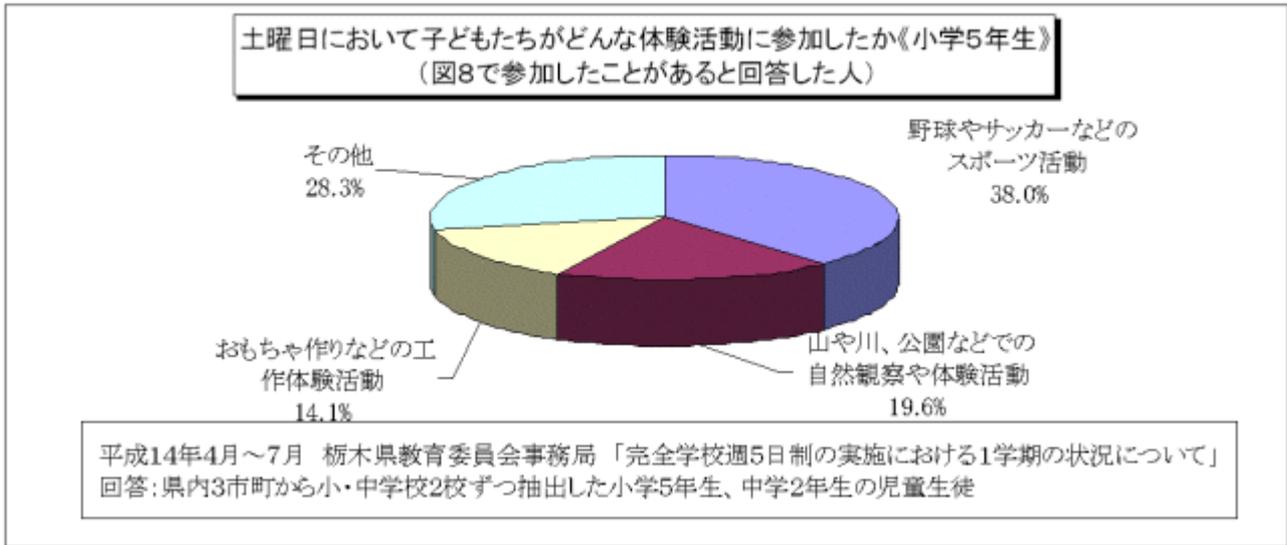


参加者の大多数は小学生。それでも、小・中学生の半数以上が参加経験なし

図6で示した土曜日における子ども・家族向け事業に、県内の児童生徒がどのくらい参加しているのかを見ると、小学生（50,934人）が圧倒的に多く、中・高校生の参加は少ない。

また、図8で児童生徒の体験活動への参加状況を見ると、小学5年生の57.4%、中学2年生の75.7%が「参加したことがない」としている。また、参加したことがある児童生徒の中では、小学5年生が「5回以上参加した（19.0%）」、中学2年生が「1度は参加した（12.9%）」が一番多かった。

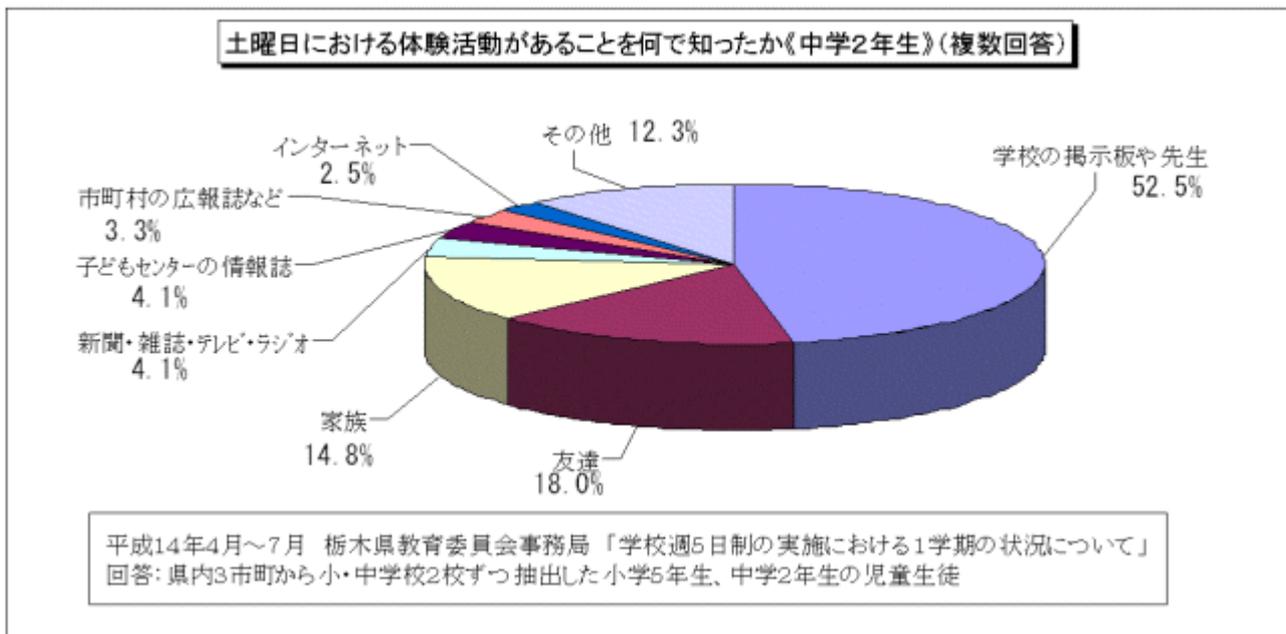
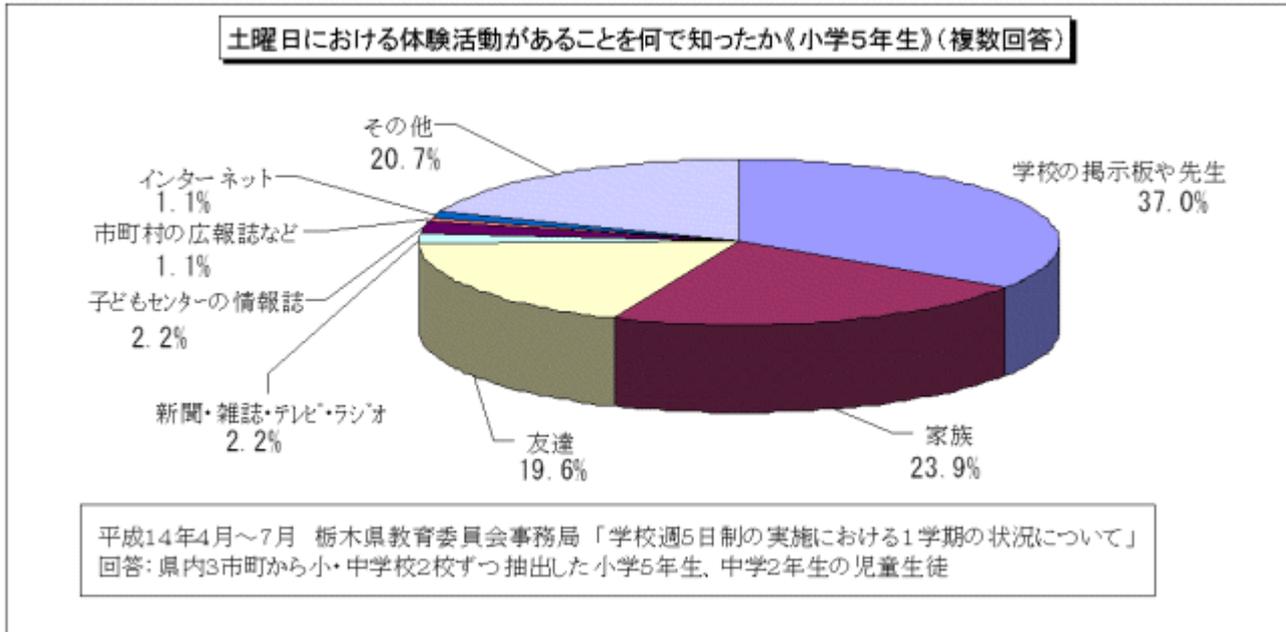
《 図9 》 土曜日における子どもたちの体験活動分野



小学生には「スポーツ活動」、中学生には「ボランティア活動」が人気

図8の体験活動への参加状況で「体験活動に参加したことがある」と回答した児童生徒の活動分野をみると、小学5年生では「野球やサッカーなどのスポーツ活動（38.0%）」「山や川、公園などでの自然観察や体験活動（19.6%）」「おもちゃ作りなどの工作体験活動（14.1%）」が上位を占め、中学2年生では「地域で行われるボランティア活動（41.8%）」「住んでいる地域の伝統文化や行事を学ぶ活動（27.0%）」「野球やサッカーなどのスポーツ活動（23.0%）」が上位を占めている。

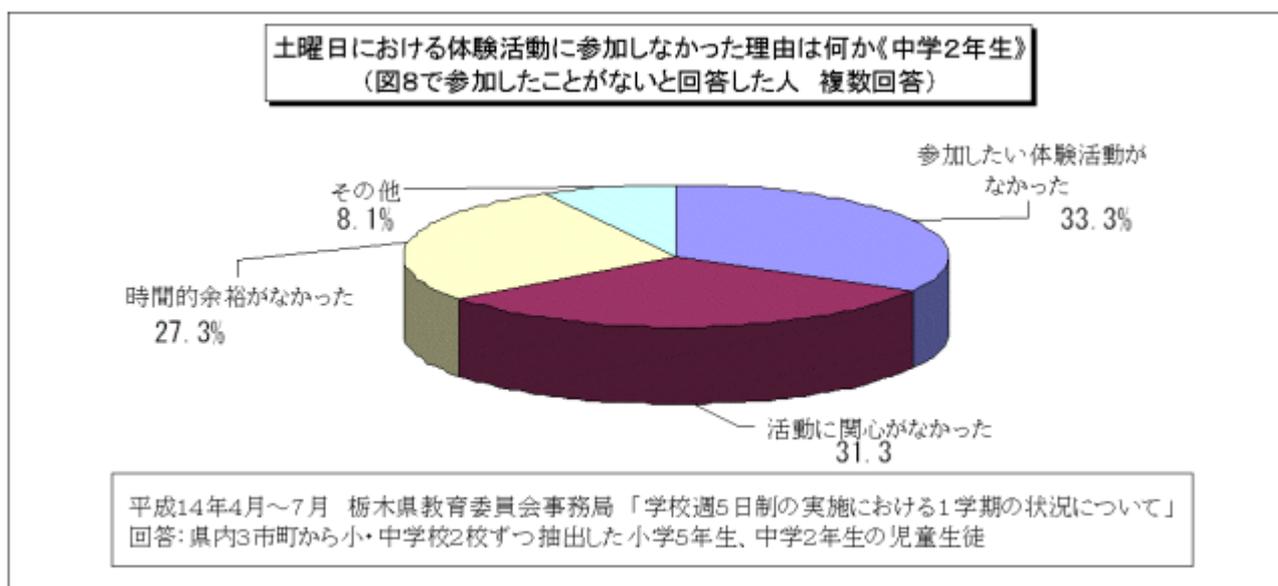
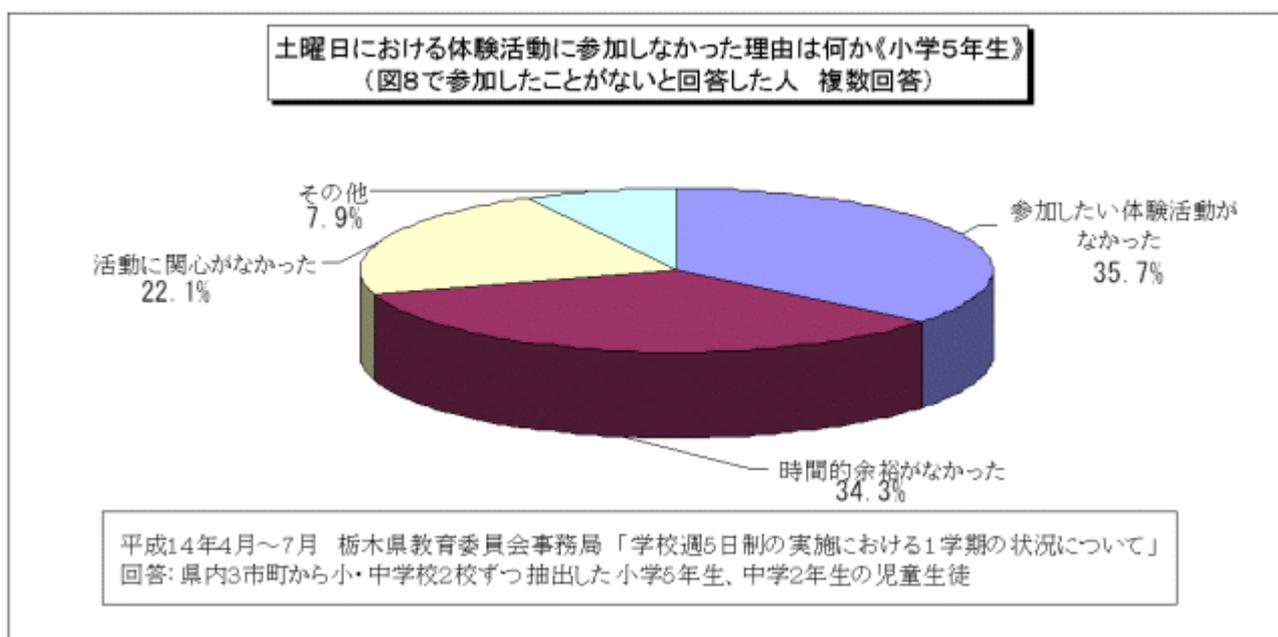
《 図10 》 土曜日における子どもたちの体験活動の情報源



効果的な学校を通しての情報提供

図8で「1回以上参加した」と回答した児童生徒が、どこからその事業の開催情報を知ったかを調べてみると、小学5年生・中学2年生とも「学校の掲示板や先生（小学5年生37.0%、中学2年生52.5%）」「家族（小学5年生23.9%、中学2年生14.8%）」「友達（小学5年生19.6%、中学2年生18.0%）」の3つが上位を占め、有効な情報源となっている。

《 図11 》 土曜日における子どもたちの体験活動に参加しなかった理由



子どもたちが求めるのは、多様な体験活動の場の提供

図8で「土曜日における子ども・家族向け事業に参加しなかった」と回答した児童生徒が、どうして参加しなかったのかをみると、小学5年生・中学2年生とも「参加したい体験活動がなかった（小学5年生35.7%、中学2年生33.3%）」「体験活動に関心がなかった（小学5年生22.1%、中学2年生31.3%）」「時間的な余裕がなかった（小学5年生34.3%、中学2年生27.3%）」の3つが参加していない理由として挙げられている。

その他の具体的な理由としては、小学5年生では「知らなかった」「一緒に行く人がいなかった」「場所が遠い」「親がやらせようとしなかった」などを、中学2年生では「部活動があった」「具体的な内容を知らなかった」などが記述されている。